

平成28年度授業改善推進プラン 美術科

昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ・どの学年も授業に前向きに取り組む生徒が多かった。
- ・授業作品を校内掲示することで、相互作品を鑑賞し、美術に対する興味関心が深まった。
- ・先輩や友人の作品から刺激を受けて、自分の作品に生かそうとする生徒が多い。

美術の課題と具体的な授業の改善策

観点	現状の分析と課題	具体的な授業改善策
関心・意欲・態度	<p>○各学年とも、授業に熱心に取り組む生徒が多いが、一部に発想・構想段階でつまづく生徒がいる。</p> <p>○進捗には個人差があるので、作業の遅い生徒のうち希望者は、放課後などの補充授業で、作品を完成させる。</p> <p>○学年が上がるにつれ、確実に発想・技能面共に上達している。</p>	<p>○毎時間ごとに、その時間の目標を明確に示すことで、制作にめあてをもって取り組める工夫をする。</p> <p>○発想・構想のヒントを適時与えたり、生徒同士で課題を解決する共同による作業を取り入れる。</p> <p>○生徒の作品展示を適時行う。多くの生徒の作品を展示し、その制作意図を同時に掲示したり、鑑賞の授業を積極的に取り入れる。</p> <p>○より深く美術を学ぼうとする生徒に対する補助資料を用意する。</p>
発想・構想	<p>○美術室にある図鑑や資料から発想を得ようと努力することができる。</p> <p>○図書館やインターネットで自分で資料を探してくる生徒はまだ少ない。</p>	<p>○主体的に資料を探せるような生徒を育てるための資料準備やアドバイスができるよう自己研鑽を積む。</p> <p>○図書室やコンピュータ室のICT機器を積極的に利用する。</p>
表現・技能	<p>○絵を描くことの基本は、まず「見ること」。1年生で、徹底的に見ることを学び、描ける自信を持つ生徒が多い。</p> <p>○絵の具が苦手という生徒も、色塗りや絵の具の特性を指導するうちに、技能を身につける生徒が多い。</p> <p>○上級生になると、実際の生活で「使いたい」と思えるようなレベルの作品づくりができてくる生徒が多い。</p>	<p>○中学生の発達段階に応じ、描写力やデザインの技法の基礎基本を身につけさせる。</p> <p>○技能向上のために自主的に取り組むことのできるワークシートを用意する。</p> <p>○材料や道具を表現の意図に適した利用ができるように構想の時間を充実させると共に、教室環境を整える。</p>
鑑賞	<p>○資料集や先輩、友人の作品を鑑賞することを楽しめる生徒が多い。校内の掲示物も大切にしようとして鑑賞している。</p> <p>○夏休みの美術館鑑賞に積極的に出かける生徒が多い。また、鑑賞レポートもよく書かれており、3年間で様々な作品に触れることができる。</p> <p>○秋の学芸発表会での作品展示をよく鑑賞する。</p>	<p>○作品の制作だけではなく、その制作意図や製作過程を大切に授業の展開を心がけ、お互いの作品を鑑賞したり、作品カードなどを記入して、制作意図をことばでも伝えられるように工夫をする。</p> <p>○学芸発表会などを通し、一人一人の表現の工夫や表現の意図を鑑賞することによって、お互いを認め合い、自らの作品を大切に作る気持ちを育てる。</p> <p>○生徒が興味を持ち、意欲的に取り組めるような鑑賞の課題を提供する。</p> <p>○三中に訪れた人が生徒作品を見て、三中の子ども達の素晴らしさを感じてくれるような環境づくりをする。</p>